

D&D
design data

2014年
1/5
第1717号
(2013年12月25日発行)

株式会社 日本住宅新聞社

〒113-0022 東京都文京区千駄木3-45-2
大阪通信局TEL.06-6271-7914/九州・福井・広島・東北
年間購読料17,000円(毎月5・15・25日発行。但し10日は団体機関誌)
<http://www.jyutaku-news.co.jp> E-mail:support@jyutaku-news.co.jp
TEL.03-3823-2511 FAX.03-3823-2566

(有)ゼムケンサービスの女性
建築デザインチーム(JKDT)。
左から3人目が籠田淳子社長



「女性建築デザインチーム」の家づくり、店づくり、まちづくり、そして幸せづくり 有限会社ゼムケンサービス 代表取締役 篠田淳子

女性力を活かした設計・施工を行っているのが、有限会社ゼムケンサービス(北九州市)だ。籠田淳子社長を含む社員9人中、6人が女性社員。一級建築士、インテリアコーディネーター、グラフィックデザイナーによる女性の感性や目線いわゆる「女性視点」からデザインを追求している。「工務店さんになることなら、何でもやりたい」と話す籠田社長の実家は、大工工務店。父親が大工職人で、生まれた時から大工に囲まれて育った。工務店を背景に持つ籠田社長に、工務店の生きる術のひとつ、女性社員による女性力の活用方法を聞いた。

わたしの会社は、建築関係では、家も店も境目なくやっています。規模で言うと、3階建てまでしかありません。高層のものに関しては、あまり興味を持っています。より人間に近い建物でありたいですね。人と建物が向き合った時に、お互いに存在感を認めあえるものをつくりたいと思っています。あとは生活力、女性の感性というものが、ひとつわたしたちの仕事です。スローガンは、「女性力を現場力」です。

現在はJKDTとして知られる「女性建築デザインチーム」という会社の強みを、明快に打ち出して活動。地元では、「建築業界のジャンヌ・ダルク」と呼ばれている。

「女性建築デザインチーム」という名前を打つたら、売り上げが倍になつたんです。今まで工事だけをやっていた時の粗利率と、設計・デザイン料をやり始めた時の粗利率と比べると、10%以上も上がりました。いまは社員9人で3億円近くの受注見込みになっています。

社内の内製化でデザイン力、女性力、生活力、建築力というものをつくりつづけてきましたが、アウトソーシング(外製化)でデザインや設計力を動かしていく仕組みづくりを、少しずつやろうとしています。

女性力をビジネスに乗せて行きたいと考えて、いろんな方と話をすると、なかで「女性建築デザインチーム」っていいですね、一緒にやっていきましょう、という話もでています。ビジネスモデルをどうしたらいいのか考えています。

全国の工務店との連携も、実際に行っている。建築士会や経営勉強セミナーなどによるネットワークを活かしているのだ。

全国の工務店さんと一緒に仕事をしていきたいですね。実際、女性建築士が本当に女性力で仕事をしているか、ということ、やっていないんです。工務店さんは、「強みを明らかに」ということができない、そこでをもっと伝えたい。工務店さんで働いている女性は多くいますけど、本当に女子力、生活力、子育てをしている母親建築士、母親インテリアコーディネーターが自分の実験を図面に起こして提案しているか、というところもつともっとできる可能性があると思います。

玄関ドアにも愛情をプラスしました。

「第7回キッズデザイン賞」において
2部門で受賞しました。



KIDS
DESIGN
AWARD
2013

Life with Green Technology
三協アルミ

快適さをプラス 不快なニオイを抑制
玄関内を健康的で快適に。

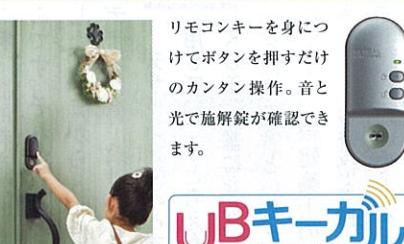


玄関ドアの内部額縁から、水に包まれた微粒子イオン「ナノイー」を発生させて空気を爽やかにします。
「ナノイー」搭載内部額縁
 ナノイー

※「nanoe」「ナノイー」は、パナソニック株式会社の商標です。

●子どもを産み育てやすい社会をつくるデザイン《個人・家庭部門 受賞》

便利さをプラス キーを取り出さなくても
ゆび一本で施解錠。



リモコンキーを身につけてボタンを押すだけのカンタン操作。音と光で施解錠が確認できます。
UBキーガル
玄関ドアスマートキー

キッズデザイン賞は、「子どもが安全に暮らす」「子どもが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」ための製品・空間・サービスで優れたものを選び、広く社会へ伝えることを目的としています。

三協立山株式会社 三協アルミ社

〒933-8610 富山県高岡市早川170 TEL(0766)20-2251
関東住宅建材支店/TEL(03)5348-0801 東海住宅建材支店/TEL(0561)62-1201 関西住宅建材支店/TEL(06)6916-0203
<http://alumi.st-grp.co.jp/>

「女性建築デザインチーム」の家づくり、店づくり、まちづくり、そして幸せづくり

卷頭インタビュー

わたしは創業5年のハセモト建設㈱（北九州市、櫛本健一社長、旧名：有柄本工務店）という、小さな工務店から小さなゼネコンになつてゐる会社の生まれで、いまは兄が社長をやつています。

家には、つねに大工さんが住み込みでいました。大工を育てる工務店だつたんですね。子どもの頃から大工さんが好きでした。父は頑固な大工の棟梁だったので、長男が家を継ぐのは当たり前。妹のわたしは箱入り娘のように育てたかつたようです。女の子らしくといいますか。

高校卒業後、進学先を決める時、父に「大工になりたい」と言つたら、すごくびっくりされて、猛反対されました。「ありえない」と。

それでも建築業界で働く意思は揺るがず、大学の建築学科に進学した。

父は、わたしが建築の仕事をすることを認めなくて、「女が建築に進んで何になるんだ」と言われました。「女は棟上げにも入れないし、女はお茶くみか電話番くらいいしかできない。お前をそう育てていらない」と。

工務店の親父ならではですよね。

来年にはコンペを行いたいんです。女性を喜ばせる家づくりというコンペです。参加者は男性でも女性でもよくて、審査員はすべて女性と考えています。

The image shows a spacious, modern bakery or deli interior. The central feature is a large, round wooden service counter with multiple drawers, which is part of a larger wooden counter system. Above the counter, three large, star-shaped pendant lights hang from the ceiling. The ceiling is white with recessed lighting. In the background, there are several display cases filled with baked goods like bread and pastries. The overall aesthetic is clean, bright, and professional.

The image shows the exterior of a modern Japanese-style residence. The building features a traditional tiled roof with a dark, curved eave. The main structure is built with light-colored, rectangular brick or stone tiles. A prominent feature is a large, cantilevered overhang supported by thick, light-colored wooden beams. This overhang extends over a paved area where several potted plants, including a large tree in a brown pot, are placed. To the left, there's a glass-enclosed entrance or porch area. The overall design blends traditional elements with modern architectural features.

This photograph captures a traditional Japanese interior, likely a hallway or a long corridor. The floor is covered in light-colored tatami mats, marked by two thick black diagonal stripes. On the left, there are large sliding doors (fusuma) with dark frames. In the center, a low wooden railing (engawa) leads to a small, enclosed shrine area (mushibei) featuring a small red lantern and a vertical scroll (kakemono). The ceiling is made of light-colored wood beams, and a skylight allows natural light to illuminate the space. To the right, a set of sliding doors is partially open, revealing a room with a window featuring a grid pattern.

The formal dining room is a warm, wood-paneled space. A large oval wooden dining table with six matching chairs is positioned in front of a built-in entertainment center containing a television. To the left, a set of double doors features a leaded-glass window with a circular design. The room is illuminated by a central recessed light in the ceiling and three pendant lights hanging over the dining table.

現実問題、お客様の予算は10000万円とか20000万円くらいで、それでもああしたい、こうしたいと要望が出てくるんですね。当時、20歳過ぎでしたが、そのギャップに驚いたんです。

細かな要望も、工務店だったら出来るのにと思っていました。工務店なら、父なら自由にできるのに、と。生意気だったわたしは、もうここでの図面は分かった、簡単な図面書き屋になりたいわけじゃなく、設計をしたいと思つたので退社しました。

その後、デザインの勉強としてヨーロッパの国々を渡り歩いた。帰国後、おもに店舗の仕事を請負うデザイン事務所に職を求めた。昭和62年のことだった。

いろいろな店舗のデザインをさせてもらいました。お客様がわたしに夢を語つてくれて、その思いを形にすることに面白さを感じたんです。

ただ現場監督として現場で図面を見せてもら、「何を言つてんだ、小娘が!」と言いました。お客様がわたしに夢を語つてくれて、その思いを形にすることに面白さを感じたんです。

それを夕に伝えると、とてもひくいしてしまった。父は一級建築士の資格を持つ「すぐ家に帰つてこい」と。「お父さんの仕事とわたしの仕事は違うのに」と思いつづも、本来わたしが思つていた「工務店なら何でもできる」という考えもありました。父は「図板一枚あれば城も建てられる」と自慢していた大工でした。子どもの頃はすごいと思つて話を聞いていましたが、仕事が分かれるようになると「図板一枚で城は建てられないやん」と心で思つていました。ただ「大工なら何でもできる」ことは知つていたので、それならわたしが書いている自由なデザインもできるだらうと。父の会社でそれを実現しようと思いました。

当時のハゼモト建設には新築依頼がほとんどなく、リフォームや修繕がメイン。新たな事業として、公共工事の受注にシフトするタイミングだった。そんな状況の平成5年、家業のハゼモト建設に入社。培つた店舗

聞いてくれましたが、小さなテサイン事務所の女建築家・女デザイナーと言われても現場の職人さんたちは、ピンとこないような状況でした。

このままではいけないと考えた籠田社長は、資格の取得を決意し、一級建築士試験を受験。受験資格を得られる年齢の1年目、一度で一級建築士に合格しました。

父は大満足して「こんなことになるとは思っていなかつた」と言つっていました。父はインテリと言つていましたけど、わたしも工務店とインテリア・デザインがジョイントしていくことが重要なんだと思いまして。それがいまから20年くらい前のことで、それがいまから20年くらい前のことで、父はよく「淳子は、建設業をサービス業にも広げていける。お前は新しい」と言つていました。当時は意味が分からなかつたんですけど、今まで言う「お客様満足」ということを指していたんだと思います。「女でも建築ができるんだな」と思つた父は、別会社をつくりました。現場監督の兄がゼネコン会社から実家に戻つて、わたしの仕事とではスタイルが違うと実家の工務店を兄が、わたしと父がもうひとつつの会社で、面白い建築をやっていこうと考えたようです。

別会社の創立は平成5年。籠田社長が実家に戻つてから1年も経つていなかつたとして店舗工事で名を挙げると、住宅の新築の話も自然に入つてくるようになつた。

テサインの仕事を展開した。その頃の店舗工事はびっくりするくらい高かつたんですね。でも、例えば1000万円かかるような工事でも工務店が見積もりすると、300～400万円くらいでできました。結構安くできました。

籠田社長が代表取締役になつたのは、平成12年（2000年）の4年後、経営の勉強会に参加し、会社の強みを出すこと、デザイン料・設計料を売り上げに入れることなどのアドバイスを受けた。それまでは工務店時代と同様、完成工事高だけで売り上げを構成していました。

デザイン・設計については、まだ自信がなかつたので、コンペに参加して入賞できたら、デザイン料・設計料を売り上げに入れていくこうと思つたんです。それでコンペに参加したら、入賞できました。いまから8年ほど前のことです。それからデザイン料・設計料も入れるようにしました。

デザインを強みとする以上、籠田社長は女性を雇用していくことを考えた。この時の判断が、現在の「KDT」の基になる。

女性経営者ということで、女性がたくさん来なんですね。一級建築士の女性、インテリアコーディネーターの資格を持つ女性の2人が最初でした。でも話を聞いてみると、働くところがないと言ふんです。

というのも「子どもを迎えて行くので、3時

、）。した。」雇 りよたいつ て居るを。

巻頭インタビュー

「女性建築デザインチーム」の家づくり、店づくり、まちづくり、そして幸せづくり



■籠田淳子(こもりた・じゅんこ)有限会社ゼムケンサービス代表取締役。一級建築士、商業施設士、インテリアプランナー、住宅性能評価員、福祉住環境コーディネーター3級、被災建築物応急危険度判定士。公益社団法人福岡県建築士会、日本アロマコーディネーター協会正会員。西南女学院高等学校、滋賀県立短期大学工学部建築学科卒業後、プレハブメーカー、設計事務所を経て、家業のハゼモト建設㈱(旧名:(有)元工務店)入社。その後、ゼムケンサービス代表取締役に就任。北九州市の開発審査委員、公共事業評価委員、景観審議会委員、都市計画審議会委員、福岡県ふくおか出会い・子育て応援協議会委員なども務める。子育て支援や男女がともに働きやすい環境づくりなど、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進に取り組み、北九州市主催の「ワーク・ライフ・バランス賞」を個人・企業として2度受賞。また今年6月には「女性だからできる経営」が評価され、内閣府主催の平成25年度「女性のチャレンジ賞」を受賞。

定士。公益社団法人福岡県建築士会、日本アロマコーディネーター協会正会員。西南女学院高等学校、滋賀県立短期大学工学部建築学科卒業後、プレハブメーカー、設計事務所を経て、家業のハゼモト建設㈱(旧名:(有)元工務店)入社。その後、ゼムケンサービス代表取締役に就任。北九州市の開発審査委員、公共事業評価委員、景観審議会委員、都市計画審議会委員、福岡県ふくおか出会い・子育て応援協議会委員なども務める。子育て支援や男女がともに働きやすい環境づくりなど、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進に取り組み、北九州市主催の「ワーク・ライフ・バランス賞」を個人・企業として2度受賞。また今年6月には「女性だからできる経営」が評価され、内閣府主催の平成25年度「女性のチャレンジ賞」を受賞。



■有限会社ゼムケンサービス

〒802-0064
福岡県北九州市小倉北区片野3-7-4
TEL 093-931-0301 FAX 093-951-1000
●東京事務所
〒113-0033 東京都文京区本郷5-32-2-203
<http://www.zmken.co.jp/>

「4時には帰らないといけない」とか、「子どもが病気をしたら、すぐに帰らない」とか、「夏休みの期間は午前中だけ働きたい」と。とてもびっくりしました。同じ女性として「だから女性は働けないと世間から思われるんだ、これはダメだ」と心の中で思いました。その後、男性の方と面接をしていた時に、ふと2人の女性のことを思いだしました。わたしは父親のような工務店の頑固おやじの頭で考えていましたが、かなと。わたしは女性ならではの経営をやつていらんだなと思ったんですね。世間の当たり前にしばられていたらアカンなど。

1人だけ採用するつもりでしたが、2人で1人分の給料をシェアするワーカシエリングの形でもいいですかと伝えたら、その女性2人はすごく喜んでくれたんですね。「レジ打ちよりも図面を書きたい」「お金はいくらでもいいから、好きな仕事をしたい」と言うので、2人を採用しました。女性雇用はここからです。

それから8年。社員は9人に増えた。そのうちの6人が女性社員だ。そんな女性雇用の会社経営が評価され、今年6月、内閣府が主催する「女性のチャレンジ賞」を受賞した。ロールモデルとして面白いと思っていただけたんじゃないでしょうか。受

賞した後、インタビューで「チャレンジ賞を受賞していかがですか」と聞かれたので、「ずっとチャレンジしてきました」と答えました。「それだけですか?」と言わされたので、わたしは「そうです」と。チャレンジ・挑戦というのは、ずっとしてきましたから。

これまでの籠田社長のチャレンジ・挑戦は、従来の建築業界の風習に対してのものとも言えるだろう。わたしは昔から、「この女め」みたいに言われ続けて育ちました。ほんと現場でどれだけ職人たちと話をしてきたか。足場の上で職人さんに「ハンマーで叩くぞ」と言われたこともあります。

わたしは昔から、「この女め」みたいに言われ続けて育ちました。ほんと現場でどれだけ職人たちと話をしてきたか。足場の上で職人さんに「ハンマーで叩くぞ」と言われたこともあります。

20数年前には、押し入れを今までうクローゼットにしようとしたら、職人さんから「それはおかしい、棚を付けるなんて聞いたことがない。そんなことをしたら俺は恥ずかしい」と言わされました。でも実際につくってみると、お客様がとても満足してくれたんですね。その顔を見た職人さんも喜んでいました。

家づくりにおいても、奥さんが機嫌よく過ごしてくれたらご主人は嬉しいですし安心しますよね。つまり奥さんの機嫌が良くなるような家づくりの方がいいんです。「女性建築デザインチーム」は、奥さんにとって話しやすい存在です。本当に工務店さんがやる気に在ります。本当に工務店さんがやる気になつて、このように女性力を全面に出し切れたら、いくらでも職人さんといい仕事が来ると思うんです。

わたしは女性目線の家づくりと技術のある職人さんの橋渡しなろうと思っています。家づくりの常識がありますが、それにアレンジを加えていくことで、お客様に喜んでもらいたいです。

この前、「いろいろ大変」とつぶやいたら、仲間の女性建築士から「なかなかそういう人がいないから、どれだけでも大きな花火を打ち上げて」と言わされました。「高い所まで打ちあがったうクローゼットにしようとしたら、職人さんから「それはおかしい、棚を付けるなんて聞いたことがない。そんなことをしたら俺は恥ずかしい」と言わされました。(女性の同業者)みんなに光が届いて明るくなるから」と。

わたしがやっていることは、(女性の大先輩の方々がやってきたことと、そんなに変わりないとと思うんですが、たまたま時代なのかとも思います。大工の娘という人が、業界になかなかいませんから。

わたしは生まれてから職人さんの膝の上で、職人さんの手で育てられました。ずっとこの業界について、業界の移り変わりも語れるくらいです。いまわたくしのような人間がないので、これが自分の役割だと思ってやっています。

賞した後、インタビューで「チャレンジ賞を受賞していかがですか」と聞かれたので、「ずっとチャレンジしてきました」と答えました。「それだけですか?」と言わされたので、わたしは「そうです」と。チャレンジ・挑戦というのは、ずっとしてきましたから。

長は少しでも工務店の手助けをしたいと考えている。工務店さんはいいところがたくさんあります。びっくりするくらい仮設資材を持っているし、整備もしている。道具もいいし、いい職人さんもいる。歴史もあるし、信用もある。でも足りないところもあります。

自社のいいところを説明するのではなく、お客様のメリットを伝えきれていますか? といふと、伝えきれていない。

籠田社長の元には、各地の工務店などから、企業訪問の依頼や、研修やセミナーの依頼が多く届くという。「工務店さんのためのトレーニングだつたり、プレゼンの仕方だつたり、工務店さんのためになることをしたい」と、現在は外部向けのカリキュラムを準備している段階だ。そんな籠田社長は業界の女性経営者、女性建築士等から、背中を押されている。

イン力というのが、工務店さんの最大の悩みだと思います。

改訂新版
木造住宅
建築コストダウン
阿部 正行



◆阿部正行著
◆8900円(税込/送料別)
◆発行:木造住宅コスト研究会

大幅内容拡充
改訂新版
好評発売中!

木造住宅 建築コストダウン

設計、施工の工夫・改善が
コストダウンのカギを握る

実際に必要な
見積り資料・記入用紙
エクセルデータ付

コストダウンに取り組むすべての工務店様 必見

お申し込みは (株)日本住宅新聞社 管理部 書籍販売担当 行 TEL 03-3823-2511 FAX 03-3823-2566

御社名	ご担当者名	送付先ご住所	TEL	ご希望冊数
			FAX	冊